

## 雌阿寒岳・羅臼岳・釧路・網走・知床五湖

【山行日】 2014年7月26日(土)～30日(水)

【集合場所】 小山発5:10 上野行き 2両目

【交通・費用】 飛行機・レンタカー : 106,000 円

【メンバー】 CL 仙石、SL 高崎、阿部マ、阿部ヨ、諏訪、清水ケ、前沢

**7月26日(土) 釧路湿原**

【コースタイム】

小山 5:10(小金井 5:03)＝羽田空港 7:13～8:10JAL1145＝釧路 9:45～10:40＝

釧路市内へ(ガスボンベ調達)＝釧路港 11:50(昼食)～12:30＝釧路湿原展望台散策 13:20～14:16＝

釧路湿原散策(温根内ビジターセンター)14:30～15:30＝阿寒湖展望台 16:00＝雌阿寒温泉景福 17:00

釧路空港に降り立つ。まずはガスボンベの調達だが、空港内を探すも無し。仕方がないので釧路市内で探すことにする。レンタカーで釧路市内に向かう。ホームセンターを見付けガスボンベを手に入れる。今度は昼食。せっかくの北海道なので、うまいものはないかと釧路港に向かう。港の広場はイベント開催中で賑わっていた。炉端焼きの煉瓦という店に入ったが、炉端焼きせずに海鮮丼 13cm を注文。食事後店を出て向かいのビルを見ると屋台村の看板が…。こっちの方が安くてよかったかも。



時間はたっぷりあるので、釧路湿原の散策。まずは釧路湿原展望台へ。でも入場料がかかるというので散策路 2.5km を一周する。サテライト展望台から釧路湿原が眼下に見えるが、感動はいまいち。展望台に戻ってきてボランティアガイドさんが、「温根内のビジターセンターからだ」と湿原内を歩ける」というので、そちらへ向かう。温根内木道の近回りを廻る。期待していたほどお花は無い。渡良瀬遊水池てな雰囲気。東側の釧路川ゾーンがいいのかもしれない。カヌーで湿原はまたにしましょう。

雌阿寒温泉の宿に向かって進むも、ナビ任せにしたところダートを 17km も走ることになってしまう。北海道恐ろし!! (道道 1093 号阿寒公園鶴居線) 国道 240 号を行くべきだったと反省。宿の温泉は最高だが、お部屋、お食事はいまいちでした。夕刻から雨、明日が心配になる。(仙石)

**7月27日(日) 雌阿寒岳**

【コースタイム】

雌阿寒温泉景福 8:10—登山口 8:15—五合目 9:42—九合目 10:45—雌阿寒岳山頂 10:56～11:10—

七合目阿寒富士への分岐 11:50—オンネト—野営場 13:23—オンネト—茶屋にて昼食 13:40～14:20—

清里民宿 FUJI16:30



朝 5 時、寝床から雨の音を聞く。出発をぎりぎりまで遅らせることにする。7 時頃には雨も上がるので、出発することにする。空は厚い雲に覆われたままだ。

国民宿舎野中温泉の前を過ぎるとすぐに登山口になった。計



画書をポストに入れ、トドマツの林を登る。林床にはコケ類が美しい。三合目からは背の高いハイマツのトンネルになる。四合目位からはハイマツの背も低くなり、イワブクロの花がそこいらに咲いている。五合目くらいで雨がぼつりぼつり、カッパの上だけ着る。降ったりやんだりが続いていたが、八合目位で急に強い雨、仕方なくカッパのズボンも着ける。ここで、阿部夫妻撤退となる。手の包帯がぬれてしまう。下山後はオンネト一野営場に車を廻してもらふことにする。

八合目から先は大きな岩がごろごろした急登となる。まもなく雨は小降りになるが、相変わらずガスの中、風は次第に強くなる。九合目で火口壁の一部に達したようだ。緩やかな砂礫の道をさらに登ると先行者が休んでいる。そこが雌阿寒岳の山頂だった。右側は断崖絶壁の様だったがガスの中で何もわからない。ガスの中



中でやっとのことで記念写真を撮り、風下の小さな岩陰にうづくまる。ほんの少しでも風が避けられる。行動食を少し摂り下山とする。

火口壁の上部の砂礫の道を下る。ガスがほんの少し切れて火口の青沼が見えた。ずいぶん下に見える。天気がよければ火口の赤沼も見えるはずだ。登りと違って砂礫の道がガスの中に続く。砂礫の中にコマクサがあちこちに咲いている。白い星形の小さい花はメアカンフスマというそうだ。鳥海山ではチョウ

カイフスマというらしい。このイワブクロはすごい。大きな群落が至るところで満開状態。イワブクロが河のようだ。八合目くらいまで下ると風もさえぎられてほっとする。向かいに黒い火山砂礫のすり鉢状の山がガスの中に見え隠れする。阿寒富士だ。先行者が斜面にとりついて黙々と登ってゆく。

六合目くらいから樹林帯に入り、ひたすら下り。オンネト一野営場におり、雨具を整理しているところに阿部夫妻が迎えにくる。ここで雌阿寒岳を終了する。オンネト一茶屋で老夫婦の話を聞きながら、遅いお昼となった。

霧の摩周湖をへて、今晚のお泊まりは清里駅前の民宿 FUJI。ここの夕食はおいしかったです。(仙石)

## 7月28日(月) 網走観光 (斜里岳は雨天中止)

### 【コースタイム】

民宿 FUJI 5:00 = 清岳荘 6:10 ~ 6:20 = 浜小清水駅、道の駅はなやか小清水(朝食) 7:30 ~ 8:00 = 小清水原生花園 8:15 ~ 8:45 = 網走流氷館(天都山) 10:00 ~ 10:30 = 網走刑務所 11:00 ~ 11:30 = 能取岬 11:50 ~ 12:20 = 道の駅流氷街道網走(昼食) 12:40 ~ 13:30 = オシンコシンの滝 15:00 ~ 15:20 = ホテル地の涯 16:00

昨晚からの雨がまだ降っている。少しずつ回復の望みを持って清岳荘へ向かう。畑の中のまっすぐの道をひたすら走り、そして霧の中の山道へ。ダートを20分ほど走り清岳荘前まで来る。

まだ降っている。用意をしようと清岳荘に入ると、「登るんですか!？」と管理人のお姉さん。雨のため登山は中止との勧告でした。皆さん、早々にあきらめ、観光への切り替えです。網走方面の観光となります。来た道を引き返しオホーツク海を目指します。海岸の釧網本線浜小清水駅の隣が「道の駅はなやか小清水」となっていました。とりあえず宿で作ってもらったおにぎりで朝食。



次に小清水原生花園を散策、道の駅流氷街道網走で情報を仕入れ、流氷館と網走刑務所を見ることに。流氷館では流氷体験とクリオネ。網走刑務所は正門前まで。途中オシンコシンの滝によりホテル地の涯。なるほどどん詰まりに建つホテルなんだ。何にしても露天風呂は最高である。(仙石)

## 7月29日(火) 羅臼岳

### 【コースタイム】

ホテル地の涯 5:10—木下小屋 5:15—オホーツク展望台 6:03—弥三吉水 6:55~7:05—仙人坂 7:42—  
銀冷水 8:02—大沢入り口 8:27—羅臼平 9:05~9:25—羅臼岳山頂 10:35~11:00—羅臼平 12:05~12:15—  
銀冷水 13:10—極楽平 13:38~13:48—オホーツク展望台 14:27~14:30—木下小屋 15:13—  
ホテル地の涯 15:20

今日は何とかお天気は持ちそうだ。部屋の下が木下小屋へ続いているらしく、4時を過ぎると、もう熊よけの鈴を鳴らして、歩き始めている。我々もホテル前に5時00分集合、ストレッチをして出発。熊のことがあるのでちょっと心配である。でも、すでに何組もの登山者が先行しているはず、運が悪くなければ熊に会うこともあるまい。



まずはオホーツク展望台、と言っても樹林帯であり、ちょっと上に行かないと、オホーツク海は見えない。ここからの尾根上が最も熊に会いやすいところだそうだ。雪と風でねじ曲げられたダケカンバが至る所に生えている。冬の厳しさを思いやる。

弥三吉水を過ぎて極楽平にさしかかると、今日の目的“羅臼岳”が樹間に見えてくる。三角に尖った山だ。仙人坂を登り切ると大沢に入る。最上部に雪渓が見える。大町さんたちが熊にあったと言う場所はここか。熊にとってもおいしいものが多いらしい。ユ

キワリソウ、エゾツツジ、お花がいっぱいだ。写真を撮りたいところだが、「帰りにしよう」とのことで、じっくりとゆっくりと登る。雪渓はゆるやかで100m位だったので、みんな問題なし。そこから岩の間の急登を登る。右手から羅臼岳がゆっくりと頭をもたげ、次第にその大きな尖った頭を持った三角錐としてせり上がってくる。



そして、羅臼平。広い鞍部になっている気持ちの良い場所だ。最後の登りに備えエネルギーを補給する。

まずは、ハイマツの中に続くゆったりとした登山道をたどる。行き着く先が岩清水だ。コケのくっついた岩の裂け目からぼたぼたと水がしたり落ちている。コップいっぱいの水になるにはちょっと時間がかかる。でも、貴重な水だ。



ここからが本格的な登り、頂上の溶岩ドームがせり上がり、それが崩壊してできた大岩の中に目印が続いている。ここいらの岩の間はお花でいっぱい。ユキワリソウ、アオノツガザクラ、エゾノツガザクラ、大きな群落が岩の間を埋め尽くす。急登も、花たちの声援で苦しくない??

溶岩ドームの最後のせり上がりをよじ登ると、そこが狭い山頂であった。一人一人と握手する。眼下に羅臼平、その先は硫黄岳につながる知床半島の縦走路。我々には難しいがあこがれ

てしまう縦走路だ。右手には羅臼の町並みも見えた。

下山は注意して、苦しかった登りを思い、そしておもいおもいに花たちをカメラに収める。

羅臼平に戻り、もう一度羅臼岳の山頂を仰ぎ見て、満足、満足。大沢のユキワリソウ、エゾツツジを思う存分楽しみ、下山。下山はちょっとスピードがつきすぎたようで、申し訳ありませんでした。熊が怖かったものですから。

(仙石)

## 7月30日(水) 知床五湖

### 【コースタイム】

ホテル地の涯 8:00＝知床五湖センターハウス 8:30～9:00—ガイド(鈴木謙一)ツアー—11:20～11:30＝女満別空港 14:00～15:30＝羽田空港 17:30＝小山 21:00

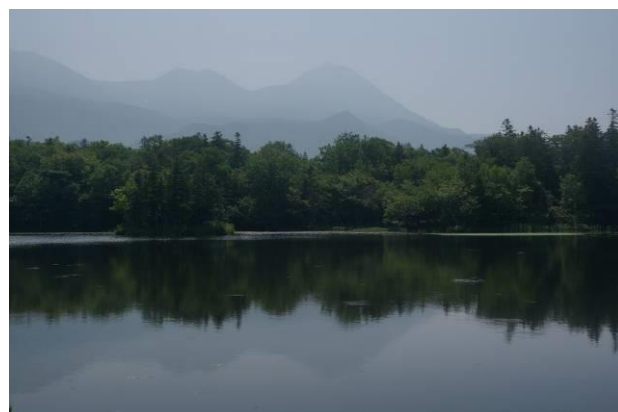
今日のメインは、知床五湖のガイド付きのツアーです。スタート前に安全のためのレクチャーを受け、9:00スタート。ガイドの鈴木謙一さんです。五湖から四湖、三湖・・・と。順に廻ってゆきます。さすがガイドさんです。飽きさせません。各湖で湖面に映る知床連山、一番右の尖りが、昨日登った羅臼岳。空全体にベールを掛けたようにもやっちはいましたけれど、やっぱり実際登った山をこうしてみることは感動です。

巡り終えて11:30。女満別に急がなくては、14:00までには着きたい。おいしいものにありつけずごめんなさい。予定通り14:00にはレンタカーの営業所に着くことができました。

















斜里には登れなかったけれど、雌阿寒岳と羅臼岳で、たくさん  
の高山植物に  
会うこと

のできた山旅でした。斜里岳はまた登りに来ます。そのときには雄阿寒岳なんかも良いかもしれません。(仙石)



知床五湖から見る羅臼岳(中央)

		
メアカンフスマの群落	メアカンフスマ	コマクサ
		
イワブクロ	イワブクロの大群落	真っ赤なハマナス
		
エゾツツジ	エゾツツジの大群落	イワヒゲ
		
エゾノツガザクラ	エゾノツガザクラ	アオノツガザクラ
		
ユキワリソウ	ウツギ	クモマソウ